

Essay 01#

風の谷から そのむこう側への旅

名古屋大学大学院医学系研究科 社会生命科学講座

坂本 純一

『風の谷のナウシカ』はもう30年ぐらい前の作品である。メーヴェを駆って赤い断崖から飛翔し、破滅的な世界戦争の後の時代を切り拓いていく少女。宮崎駿の描く主人公はオディッセイアに登場するオリジナルと思われるパイアエアの姫ナウシカとは違って、生き生きとした積極的なキャラクターとして躍動していた。

十数年前にオーストラリアの研究所と私の作ったモノクローナル抗体の translational study の共同研究をするために、計2ヵ月近くメルボルンの郊外に滞在したことがある。

平日は朝から晩までミーティングや実験が詰まっていて結構忙しい毎日であったが、土曜、日曜になるとポッコリと時間が空いてしまう。同行した群馬大学の織内准教授とせっかくオーストラリアまで来ているのだからと、ある週末、大陸の真ん中にあるエアーズロック（ウルル）まで出かけた。エアーズロックそのものも素晴らしいところであったが、そこから50kmほど離れたマウントオルガ（カタ・ジュタ）という場所が極めて印象的であった。車を駐車場に止めて4-5時間トレッキングをした。砂漠のなかに赤い岩山がいくつもそびえたち、その間の谷は緑で覆われていた。聞いてみると、そこは「風の谷」と呼ばれている場所であった。案内をしてくれた人が「ここが宮崎駿の『風の谷のナウシカ』のモデルになった場所だといわれている」と教えてくれた。そうい

ばあの作品に出てくる荒涼とした風景に似ているような気もした。確かに両側にそそり立つ赤い断崖とその間の谷に繁る草木があのでスピーディーなアニメーションの画面に登場してきた光景と一致しているような既視感があった（写真1）。

風の谷のモデルはそのほかにもパキスタンのフンザ渓谷であるとの説もあるが、ジブリの公式サイトではそのどちらとも明言はしてはいない。

興味をもったので、それから旅行をするたびに宮崎駿の作品に登場してくる場所と思しきところを探訪してみることにした。

『もののけ姫』については秋田で消化器外科学会があったときにレンタカーを借りて舞台のひとつといわれている白神山地まで5時間かけてドライブし、「ぶな」の原生林を歩いた。鹿児島であった消化器外科学会の折には屋久島まで足をのばして同じく作品の想を得たという白谷雲水峡を上流まで辿った（写真2）。

『紅の豚』は主にアドリア海周辺の街を舞台にしているといわれているが、オーストラリアのポートキャンベルという町には主人公のポルコが鼻屑にしていたパブがある。赤い飛行艇（タイガーマスというオーストラリアでよく見かける飛行機）の秘密基地のある場所は Loch and Gorge や London Bridge という入り組んだ海岸線にそ

っくりである。海のグランドキャニオンと呼ばれている Great Ocean Road 沿いにあったので、これも何度目かにメルボルンに共同研究のために出かけたときにわざわざポートキャンベルで一泊して訪れた（写真3）。

『魔法の宅急便』の最初の舞台になったスウェーデン・ゴトランド島ヴィスビーの町にはいまだ行ったことがないが、キキが辿り着く海辺の大都会のモデルはストックホルムだそうである。昨年の ESMO の学会に出席したとき、舞台になった旧市街ガムラ・スタンを歩いた（写真4）。キキが箒に乗ったまま突っ込んでしまう時計塔は、スウェーデンではなく、オーストラリア、メルボルンのフリンダース駅のものである。また、タスマニア島の首都ホバートから 100 km ほど北にいった

ロスという町にはキキが下宿をしたパン屋のモデルである Ross Bakery があるといわれているので、タスマニアに行く機会があればぜひ訪ねてみたいと思っている。

『ハウルの動く城』のモデルはフランスのアルザスである。ストラスブールであった会議の折にグリュネヴァルトのイーゼルハイムの祭壇画のあるコルマルに行った。このコルマルの街の旧市街には物語に登場する建物がそのままの姿で残っている（写真5）。

『天空の城ラピュタ』の風景の多くはイギリスのウェールズ地方とのことである。ただし建造物を覆い、からみついている木々はカンボジアのアンコールワットの地域にある「タ・プローム」と



① オーストラリア・Mount Orga (カタ・ジュタ) にある風の谷 ② 屋久島、白谷雲水峡 ③ オーストラリア、Great Ocean Road にある Loch and Gorge ④ スウェーデン、ストックホルムの旧市街を望む



Essay 01#

いう寺院の遺跡がモデルだといわれている。バンコクの研究会の後に立ち寄ったこの寺院はガジュマルの木が遺跡に巻きつき、徐々に石造りの建造物を締め付け壊している、他のアンコールの遺跡とは違ってもとの姿に戻すための修復はなされず、自然の破壊するままの状態に放置されていて、それがかえって極めて強い印象を与える（写真6）。最近では映画『トゥームレイダー』の舞台にもなって、現在では主演女優の名前をとって「アンジェリーナ・ジョリー遺跡」と名前が変わってしまったことについては、残念ながらかなり違和感がある。建造物としてはかの有名なフランスのモン・サン・ミッシェルがラピュタのモデルであるともいわれている。ただし最も印象が似ているのはトゥールーズ・ロートレックの生地であるアル

ピから少し北にある「Cordes sur Ciel（天の上のコルド）」と呼ばれている村で、私はここが一番じっくりとくるような気がしている（写真7）。

学会や研究の打ち合わせのために外国に行くこと、観光をすることが億劫になって、どこにも寄らずにそのまま飛行機に乗って帰ってきてしまうことも多い。

宮崎駿のアニメシリーズのモデルといわれている、またそこに出てくるさまざまな場面に風景が似ている場所を訪ねることを外国に出かけるときの目的とするようになって、無味乾燥な白黒フィルムのものであったこれまでの旅行の光景が、ときどき鮮やかな色に彩られるようになったような気がしている。



⑤ フランス・アルザス、コルマルの旧市街
⑥ カンボジア、アンコールワットの近くにある「タ・ブローム」の遺跡 ⑦ フランス南西部、「Cordes sur Ciel（天の上のコルド）」の村

